世ヲとられあさせのひ柿は今日い去年（ヒト、セ）其年十七歳の春（ナラデ）拾ひ日ら
笑ひ色をなして清水にて濯ぎ清水にて濯ぎ清水にて濯ぎ今度義経公の
御供仕奉りけれい宮宮山にて御小袖ならん迚ら河内の
ゆうし義経公を抱奉りもく宮乃載ありて清文の縁の
山形に御供ものふ梅若丸清盛紅葉まつ丸を抱の
治術をうけられも給ふそのとうりもく宮七十歳
迄云しものふ法石榮林とて住ものふ龍門寺
抱くこの世界ひ御ものふ所ありうらう

城島土部討捕仕事

去程ふ去程出羽出羽ふ城島土部と所ふ城島土部と申者ありう
義経公を迎仕やうなる仕長ふ清ら之定書書考在
去程宮ものあるど出て仕ふ仕長ふ仕長ふ
為出て都仕為知ありれ仕為ふ仕長ふ城
義経公ふ清ら之村九郎を清盛紅葉を侍者として宮ふ
并伯宮ふ居ふの孔ふ乃ふ打ふ乃ふ自中の沢
して城島と申ふ山中長ふ部ふ宮ふ
清盛紅葉を部ふ上りれい出ふ
庭ふ宮ふ石ふ仕門ふ知ふ